

# 手賀沼水生生物研究会 船上調査報告

2016. 9. 10 実施

プランクトン調査：担当 梶真壽

天候：晴 風：朝のうち東1m のち3m

気温：32℃（出航時）

丸数字：採取地点（もんどり設置地点の近く）

## 記

\*一般的傾向：

植物：藍藻、珪藻、緑藻ともに、密度は低い。緑藻のクンショウモが目立つ。

動物：ワムシはかなりいる。ツボワムシが特に顕著。ミジンコ類はコペポイデアが少し。

原生動物は鞭毛虫類がほとんど。泥が入ってくるので底生のものが混じる。

\*採取地点による違い

- |   |          |       |         |                          |
|---|----------|-------|---------|--------------------------|
| ① | 根戸下      | 09:45 | 水温29.2℃ | ワムシが多い（ツボワムシ、フクロワムシが目立つ） |
| ② | 大津川河口    | 10:36 | 水温29℃   | 泥が多くて勉強にならない             |
| ③ | 湖北州水路付近  | 11:16 | 水温27.8℃ | クンショウモ、セネデスムス、アメーバ、      |
| ④ | 曙橋F.C.棧橋 | 12:10 | 水温29.4℃ | 珪藻より緑藻の比重が高い             |
| ⑤ | ビオトープの対岸 | 14:03 | 水温29℃   |                          |

緑藻の比重が高い。 ハナビワムシの花火を見た。

ハナビワムシは、ヒルガタワムシのような伸縮性で、伸びると繊毛冠は見え、頭部がラッパのようにひらきます。このとき褐色の分泌物が煙のように噴き出るさまが、子供花火とかクラッカーのように見えるので、ハナビの名前もうなずけます。



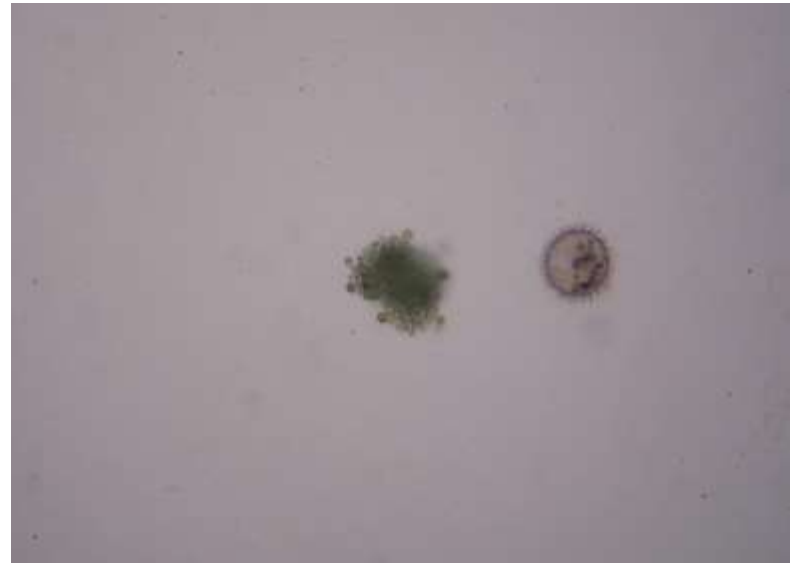
「みずすまし号」



根戸下（計数と記録）



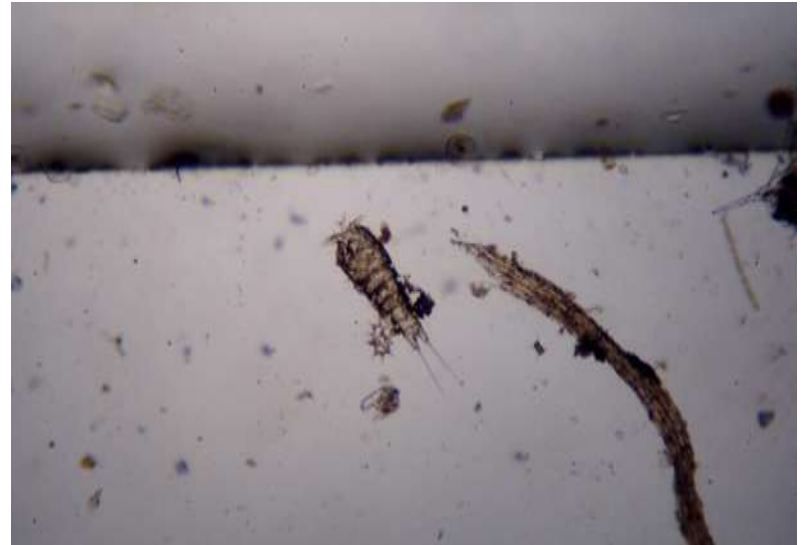
① 主にツボウムシ



① 藍藻類（種名不詳）



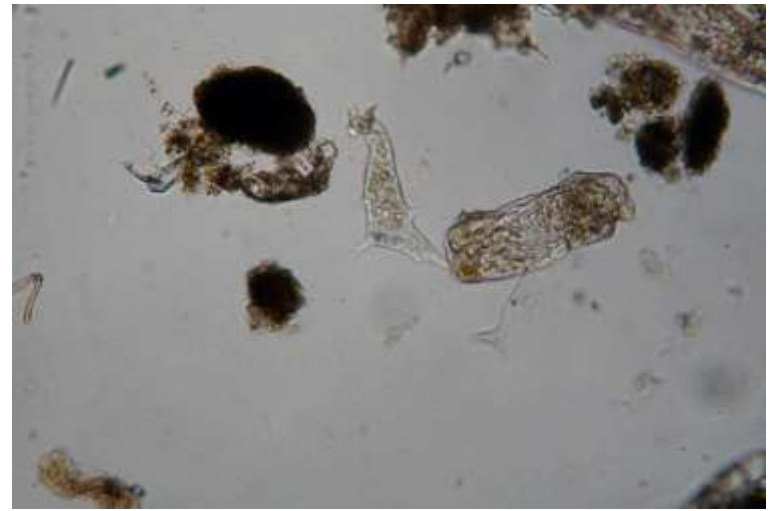
① 環形動物



② コペポイディア



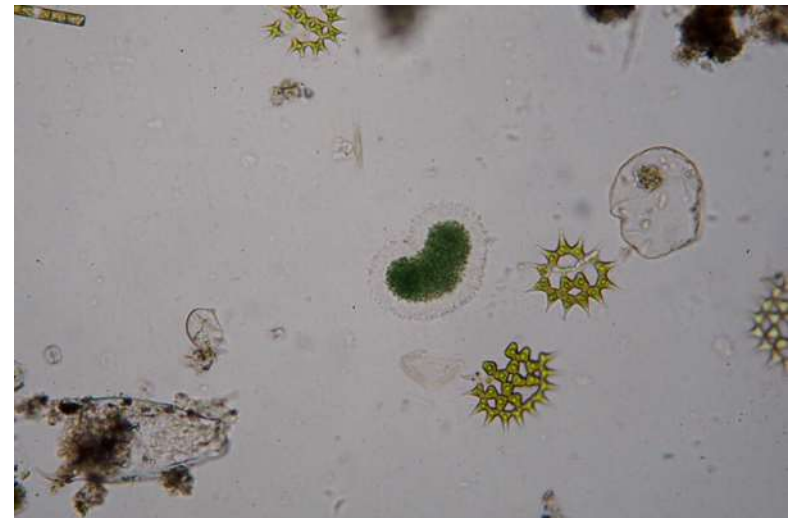
③ クンショウモ (群)



③ アメーバ



④ ワムシ (群)



④ 藍藻の一種

# ハナビワムシ



収縮状態（ヒルガタワムシに似ている）



褐色の分泌物を放出する（クラゲの刺胞に似る）



ラッパ型に開いた頭部（緑藻を飲み込んでいる）

# 2016年9月10日(土) 手賀沼船上調査

天候：晴れ 参加者：9名

魚類調査記録担当：鈴木 盛智

	親水広場棧橋		根戸新田		大津川河口	ピオトープ下流		漁協前		片山新田	鷺野谷新田		ハス繁茂帯	
	8:30~9:00							12:00~12:30						
#	2	1	3	4	5	7	6	8	9		11	10	13	12
モンドリ	3(30分) 3(30分)		3(30分) 3(30分)			3(30分) 3(30分)		3(30分) 3(30分)			3(30分) 3(30分)		3(30分) 3(30分)	
			AYC 沼南園			AYC 沼南園					AYC 沼南園		AYC 沼南園	
	沖	岸	沖	岸		東側	西側				東側	西側	外側	内側
モツゴ	214	50	11	289		4	96	25	232		6	10	42	77
スジエビ	11	70		12			1	13	1		22	38	6	5
タイバラ	10	57		11		7	8	9	24		2	8		
タモロコ	1	1		1			1							
ヨシノボリ		1												
ヌマチチブ													1	
テナガ						1								
ツチフキ						1	1		1				1	
ギル稚魚														1
底質			砂地		軟泥	軟泥				軟泥	砂地、ヘドロ小		軟泥	
水深			40cm		40cm	60cm				30~50cm	40cm		80~100cm	
ガサガサ														
モツゴ														
スジエビ			○大量								○大量			
タイバラ稚魚			○								○			
ヨシノボリ			○								○			
ヌマチチブ			○								○			
カダヤシ			○								○			
ギル稚魚			○								○			
ドブガイ貝殻														
ヒル			○											

※根戸新田 ナガエ群落というより既に帯。  
 ナガエ群帯の下にはスジエビが多いが岸沿いの他の場所にも多いため、特にナガエの下に集まっているというわけではない。  
 ナガエ群帯は手賀沼大橋西側が特にひどく目立つようになってきている。  
 大津川河口にはナガエ群帯の島があり、今後下流に流れていくと思われる。

※大津川河口 プランクトン調査のみ ボラが水面でジャンプを繰り返す。

※片山新田 手賀の丘公園下の水門のある建物の前 浅瀬30~50cm 軟泥で降りられず。

※漁協からの帰り道 沖合でゲンゴロウブナ、ボラ、ハクレンのジャンプが数多く見られた。



# 2016-09-10 手賀沼船上調査



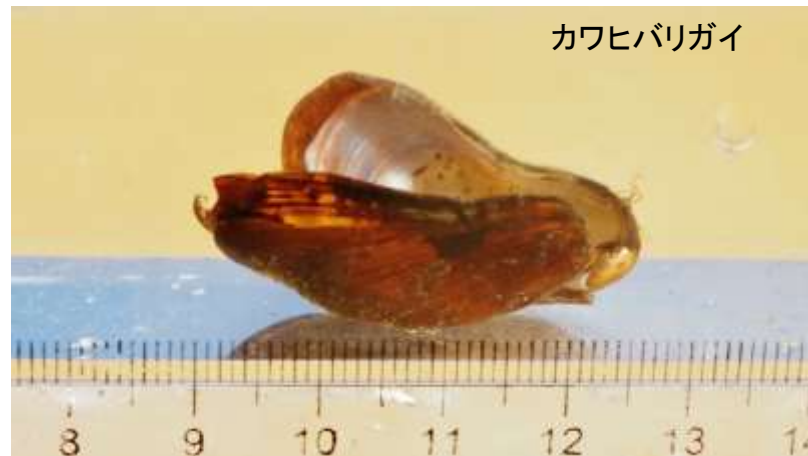
写真提供: 百瀬喬氏

根戸新田前のナガエツルノゲイトウ



ボラのジャンプ









カダヤシ♂



カダヤシ♀



ヨシノボリ



ヨシノボリ



ヌマチチブ



タイリクバラタナゴ



テナガエビ



タイリクバラタナゴ稚魚



テナガエビ



スジエビ?





ツチフキ



ブルーギル稚魚



ゲンゴロウブナのジャンプ